

活動報告

2014年度 全学教育センター FD 活動報告

岡 多枝子

日本福祉大学 社会福祉学部

榎 井 彩 華

日本福祉大学 全学教育センター

Report on Faculty Development Activities by Nihon Fukushi University
Inter-departmental Education Center in the Academic Year 2014

Taeko OKA

Faculty of Social Welfare, Nihon Fukushi University

Ayaka MASUI

Inter-departmental Education Center, Nihon Fukushi University

1. 2014年度全学FD概要

全学FD活動は、本学教職員の教育・業務遂行スタンダードとなる全学的な教育開発課題に関する知識及び情報共有を目的として実施してきた。これまでの経緯は、2007年度から「きょうゆうサロン」と「パスツアー」、2011年度から「ランチタイムFD」、2013年度から「ICTスキルアップ講座」として「Googleシステムの活用講座」を実施している。2014年度は、「能動的な学習活動の促進に向けて」を共通テーマとしてこれらの事業と、新任教員を対象としたFDを実施した。各FDの日程とテーマ、参加者数を表1-1に示す。なお、FDではUstream（ユーストリーム）によるインターネットリアルタイム配信を行い、当日不参加の教職員が視聴できるようにしている。毎回視聴者があり、今後さらに異なるキャンパスでの視聴やリフレクションを含めて有用であると考えている。

1-1. 全学FD

1) 全学FDフォーラム

全学FD事業の柱のひとつである「全学FDフォーラム」では、教育技術、教育手法の開発に資する取り組みとして、「アクティブ・ラーニングことはじめ」をテーマに、三浦真琴先生（関西大学教育推進部教授）とLA（関西大学 Learning Assistant の学生）に話題提供をお願いした。

授業やゼミ活動において学生の興味関心・主体性を伸ばす授業設計の工夫を、ご自身の実践の中から多彩に披露していただいた。同時にアクティブ・ラーニングの原点に戻って、教員の思い込みを排し学び手の立場から授業を組み立てる理念と実践を提案していただいた。学長・副学長も参加されたグループワークも好評で、アンケートでの参加者満足度は高く、「授業の大切さを再認識した」、「自己の授業に関する問いが鮮明になった。教員としての learning の始まりです」、「What not to teach という発想が刺激的だった」、「ゼミ学生も参加させてい

表1-1 2014年度全学FD 実施日程

全学FD		
開催時期	開催テーマ	参加人数 (Ustream 視聴者数)
「全学FDフォーラム」		
2015年1月8日	「アクティブ・ラーニングことはじめ」	37名(17名)
「ランチタイムFD」		
2014年7月15日	能動的学修に資するICT教育	15名(18名)
「きょうゆうサロン・バスツアー」		
2015年3月6日	地域と連携した教育を考える	40名
「ICTスキルアップ講座」		
2015年1月14日	Gmail導入に伴うGoogle Appsの授業への活用法	9名
2015年1月20日	Gmail導入に伴うGoogle Appsの授業への活用法	7名
新任教員FD		
開催時期	開催テーマ	
2014年4月2日-3日	新任教員オリエンテーション(キャンパス紹介, 教務オリエンテーション等)	
2014年5月8日	配慮を必要とする学生の理解	
2014年5月22日	犀川スキーバス事故から学ぶ/理事長懇談	
2014年5月29日	本学の試験の仕組み; 障害学生への配慮等	
2014年10月16日	「安全の日」の取り組み	
2014年12月18日	本学の組織・大学運営について	

ただいたのでHow to learn にトライしたい」など、今後の教育実践に有用であるとの声が寄せられた。

しかし、「もう少し時間が欲しかった」、「具体的なワークをもっと行いたい」など、継続的な研修への希望も寄せられ、今後のFD事業や教育活動や研究活動に発展できる可能性を含む有益な研修の場となった。

2) ランチタイムFD「能動的学修に資するICT教育」 情報環境の活用FD

ランチタイムFDは、昼食の時間(12:40~13:20)を利用し、話題提供者には15~20分程度話をさせていただき、その後に質疑応答の時間として構成している。前年度、参加者から反響のあったGoogle Apps等の「能動的学修に資するICT教育」をテーマに話題提供とICT活用事例を紹介し、効果的な授業実践に関する議論を行った。

3) きょうゆうサロン・バスツアー「地域と連携した教育を考える - 東海市バスツアー」

バスツアーは、例年10名~20名の参加が得られており、2014年度で8回目を迎える。今年度は、きょうゆうサロン企画を合併して3月に開催し、地域に根ざす大学としての知多半島(主に北部)の教育資源の共有と、東海キャンパスでのPBLや双方向型授業等の新たな教育の取り組みに関する情報交換(きょうゆうサロン)を行った。

特に2014年度は、新キャンパスの開設を2015年4月に控えていることに加え、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受けて、大学としてますます地域との関係性を発展させていくため、地域特性に対する理解を深め地域の教育資源を知る必要がある。新キャンパスである東海キャンパスが立地する知多半島北部は、臨海工業地帯として産業の集積があるとともに、新興住宅地も多く市民活動も盛んな地域である。この観点を踏まえて、地域の企業(愛知製鋼株式会社、カゴメ株式会社)や自治体(東海市健康推進課)関係者の協力をいただき、

教育・研究・社会貢献等を地域と協働して取り組むためのリサーチの機会となるツアーを企画した。各訪問先では、東海キャンパスに学生たちが来ることを歓迎する声が多く聞かれた。ツアーの最後は、東海キャンパスの施設見学を組み込み、アクティブ・ラーニング教室の機能や、PBL や双方向型授業等の新たな教育方法を共有した。また、きょうゆうサロンとして各キャンパスの教職員によるグループワークを行い、ともに考え合う場となった。

4) ICT スキルアップ講座

ICT スキルアップ講座は、本学の教育における情報活用の促進や教員の資質向上を目的として開催している。2013 年度から、大学全体で新しい情報環境 (Google のメールシステムおよびクラウドサービス) が導入され、クラウドサービスの一環である Google Apps 機能を用いた授業運営の質向上に資する活用方法の検討が続いている。これらの機能活用を題材とした ICT スキルアップ講座は、2013 年度より継続的、段階的に開催している。2014 年度はより具体的に実際の授業において教員が利用する場面を想定し、参加者が事前準備から、授業時における学生への指示までをすべて行えるよう、演習形式で進めた。

具体的には、Google ドライブの「フォーム」機能によるアンケートフォームの作成や集計結果のダウンロードの仕方やデータの共有、リアルタイムでの共同編集やコメント機能等の使用方法について説明を受けつつ、当日の参加者がクラスメンバーであると仮定して実践を行った。また、教員が学生とデータ共有する際に、教務手帳から学生のメールアドレスを加工する方法を紹介したほか、Web アンケートのリンクを QR コードに変換し、実際に参加者自身のスマートフォンで画面を見てもらうなど、近年急増しつつある学生のスマートフォン利用を念頭に置いた講座内容とした。

1 - 2. 新任教員 FD

新任教員 FD は、本学に新たに赴任した専任教員を対象とした、FD 学習プログラムであり、2009 年度より実施している。この学習プログラムは例年概ね変わらず、赴任時のオリエンテーションに加え、年度内 4 回の学習会と「安全の日」の取り組みへの参加を含め全 6 回の構成となっている (表 1 - 1 参照)。今年度も例年に倣い、

4 月に新任教員オリエンテーション、5 月には、「配慮を必要とする学生の理解」「本学の試験の仕組み：障害学生への配慮等」「犀川スキーバス事故から学ぶ」の 3 本のテーマで実施した。後期は 12 月に、「本学の組織・大学運営について」をテーマに実施した。対象者は 2014 年度の新任教員 27 名であった。

今後、複数にわたるキャンパスの問題や、通信課程、教員の雇用形態の多様化等の課題にきめ細かく対応していく必要がある。

2. 総括

FD のテーマを年間で通したことにより、さまざまな視点から、「能動的な学習活動の促進に向けて」考えることができた。大学は高等教育機関として専門教育を学ぶ場所であることはいまでもないが、時代の変化とともに、大学教育に求められるものも多様化している。特に、本学は「ふくし」を学ぶ総合大学として、地域とのつながりや社会資源の活用を教育の現場に持ち込むことが重要である。その意味でも、FD 活動を通して、本学の拠点となる知多地域において自治体や地域企業、民間団体などの取り組みに学ぶ意味は大きい。さらに、学生が学びを深めるための基礎力となる文章力や他社と協働する力をいかに修得させるか、また、学生自身の能動的・主体的に学ぶ姿勢をいかに喚起するかについては、次年度以降も本学の教育活動に問われる課題であり、教職員が教育課題を議論し共有する場を意識的に作ることが求められる。